

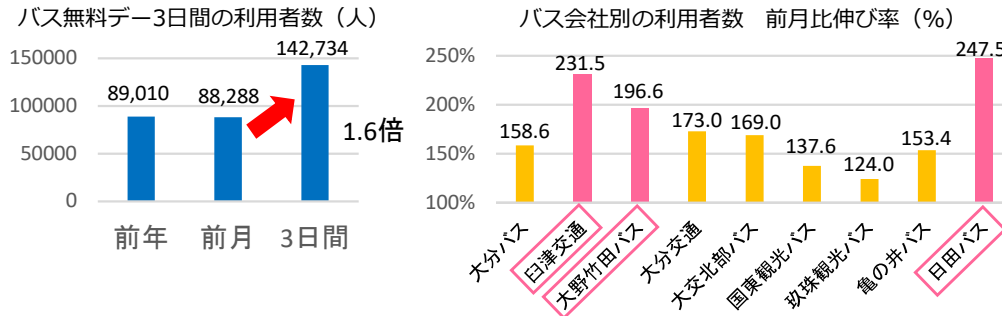
乗合バス利用効果実証事業（バス無料デー）の実施結果について

利用者の減少が続いている公共交通の利用を促進するとともに、買い物等の外出機会の創出による地域経済の活性化や交通渋滞の緩和、環境負荷の軽減など多面的な効果発現を検証するため、大分県内の路線バス9社を対象とした運賃無料運行「**バス無料デー**」を開催

日 程：令和6年12月15日（日）、令和7年1月15日（水）、令和7年1月22日（水）の合計3日間

利用促進効果

- ・ **バス無料デー3日間**の利用者数は**約14万人**で、**前月比の約1.6倍**
（バス無料デー後の利用者数は実施前の月と比べ、ほぼ横ばい）
- ・ **臼杵・津久見・竹田・豊後大野・日田などの地域では約2倍**
⇒バスを利用する良いきっかけとなるとともに、潜在需要の高さも確認できた。



経済効果

約1億3,600万円（事業費5,566万円）

- ・ まちなか等の賑わいづくりに寄与

※ アンケートの「バス利用頻度」の項目で「ほとんど乗らない」「初めて乗った」と回答した方の当日支出見込額等から算出

渋滞緩和・環境負荷軽減効果

- ・ 休日・平日ともに、大きな交通量の変化はなかったが、平日の夕方、**明野・鶴崎地区において速度向上の傾向を確認。**
※ 休日の昼間12時間（7時～19時）、平日の朝ピーク時（7時～9時）、夕ピーク時（17時～19時）の交通量（平均速度）を計測
※ 大分河川国道事務所調べ

アンケート結果（主な項目）

（回答数：3,886件）

- ・ **約9割が満足**と回答
- ・ **バスを利用したいと思える要因**として、**定時性の向上(53%)**、**便数の増加(24%)**や**運行情報等のわかりやすさ(21%)**が上位に望まれている。
- ・ 無料でなければ乗らない方は約6%と少数で、**無料でなくてもきっかけがあれば、バス利用が期待できる。**

検証結果を踏まえた今後の取組

- ☞ バスの利用促進のためには、運賃よりも、定時性や便数の課題など利便性の確保が重要であることから、**乗務員確保、鉄道との接続強化、市町村等の多様な主体による交通機関の確保及びゾーン制運賃の導入など**に取り組む。
- ☞ 75%が無料デーを認知して利用していたことから、今回のバス無料デーはバスに関心を持ってもらう有効な取組となった。今回の取組以外にも、**引き続き様々な広報活動に取り組む。**
- ☞ 今回の各種データは、今後の施策立案や、今年度更新作業を行っている大分県地域公共交通計画の参考にするとともに、バス事業者や市町村等へ提供する。